

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月3日

【四半期会計期間】 第106期第3四半期(自平成28年10月1日至平成28年12月31日)

【会社名】 株式会社広島銀行

【英訳名】 The Hiroshima Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 池田 晃 治

【本店の所在の場所】 広島市中区紙屋町一丁目3番8号

【電話番号】 広島(082)247局5151番

【事務連絡者氏名】 総合企画部長 尾 木 朗

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋二丁目7番19号
株式会社広島銀行東京事務所

【電話番号】 東京(03)6228局7555番

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 大 段 茂 樹

【縦覧に供する場所】 株式会社広島銀行松山支店

(松山市南堀端町6番地5)

株式会社広島銀行岡山支店

(岡山市北区磨屋町1番3号)

株式会社広島銀行東京支店

(東京都中央区京橋二丁目7番19号)

株式会社広島銀行大阪支店

(大阪市中央区北浜三丁目2番23号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 東京支店及び大阪支店は金融商品取引法の規定による縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜のため縦覧に供する場所としております。

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成27年度 第 3 四半期 連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 12月31日)	平成28年度 第 3 四半期 連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 12月31日)	平成27年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)
経常収益	百万円	100,022	104,378	134,366
うち信託報酬	百万円	99	124	150
経常利益	百万円	39,186	36,282	47,210
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	26,691	25,947	—
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	—	—	31,355
四半期包括利益	百万円	20,295	1,755	—
包括利益	百万円	—	—	17,759
純資産額	百万円	450,327	443,258	447,919
総資産額	百万円	8,021,936	8,914,633	8,200,925
1 株当たり四半期純利益金額	円	42.89	41.59	—
1 株当たり当期純利益金額	円	—	—	50.37
潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	円	42.83	41.54	—
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額	円	—	—	50.30
自己資本比率	%	5.6	4.9	5.4
信託財産額	百万円	43,173	52,283	38,569

		平成27年度 第 3 四半期 連結会計期間 (自 平成27年10月 1 日 至 平成27年12月31日)	平成28年度 第 3 四半期 連結会計期間 (自 平成28年10月 1 日 至 平成28年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	円	13.13	8.27

- (注) 1. 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2. 第 3 四半期連結累計期間に係る 1 株当たり情報の算定上の基礎は、「第 4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1 株当たり情報」に記載しております。
3. 自己資本比率は、（（四半期）期末純資産の部合計 - （四半期）期末新株予約権）を（四半期）期末資産の部の合計で除して算出しております。
4. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係るものを記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は提出会社 1 社です。

2 【事業の内容】

当第 3 四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当ありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

連結財政状態につきましては、貸出金は、事業性貸出等と個人ローンがともに増加した結果、前連結会計年度末比2,944億円増加の5兆5,622億円となりました。預金等（譲渡性預金含む）は、地域に密着した営業活動に努めた結果、前連結会計年度末比3,991億円増加の7兆4,128億円となりました。有価証券は、前連結会計年度末比332億円増加し、2兆289億円となりました。

連結経営成績につきましては、経常収益は、株式等売却益の増加を主因にその他経常収益が増加したことなどから、前年同期比43億56百万円増加し、1,043億78百万円となりました。一方、経常費用は、貸倒引当金繰入額の増加を主因にその他経常費用が増加したことなどから、前年同期比72億61百万円増加し、680億96百万円となりました。この結果、経常利益は、前年同期比29億4百万円減益の362億82百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比7億44百万円減益の259億47百万円となりました。

国内・海外別収支

資金運用収支は、53,137百万円となりました。

役務取引等収支は、13,926百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	55,737	—	85	55,652
	当第3四半期連結累計期間	53,263	—	125	53,137
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	61,103	—	87	61,015
	当第3四半期連結累計期間	59,946	—	128	59,818
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	5,366	—	2	5,363
	当第3四半期連結累計期間	6,683	—	2	6,680
信託報酬	前第3四半期連結累計期間	99	—	—	99
	当第3四半期連結累計期間	124	—	—	124
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	15,230	—	262	14,968
	当第3四半期連結累計期間	14,260	—	334	13,926
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	22,237	—	1,152	21,084
	当第3四半期連結累計期間	21,680	—	1,237	20,442
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	7,006	—	890	6,116
	当第3四半期連結累計期間	7,420	—	903	6,516
特定取引収支	前第3四半期連結累計期間	278	—	—	278
	当第3四半期連結累計期間	135	—	—	135
うち特定取引収益	前第3四半期連結累計期間	278	—	—	278
	当第3四半期連結累計期間	135	—	—	135
うち特定取引費用	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	5,831	—	—	5,831
	当第3四半期連結累計期間	2,427	—	—	2,427
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	11,514	—	—	11,514
	当第3四半期連結累計期間	9,169	—	—	9,169
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	5,682	—	—	5,682
	当第3四半期連結累計期間	6,741	—	—	6,741

(注) 1. 「国内」とは、当行及び国内に本店を有する(連結)子会社(以下、「国内(連結)子会社」という。)であります。

2. 「海外」とは、海外に本店を有する(連結)子会社(以下、「海外(連結)子会社」という。)であります。

3. 「相殺消去額」とは、連結会社間に係る相殺消去額であります。

国内・海外別役務取引の状況

役務取引等収益は、20,442百万円となりました。

役務取引等費用は、6,516百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	22,237	—	1,152	21,084
	当第3四半期連結累計期間	21,680	—	1,237	20,442
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	3,295	—	—	3,295
	当第3四半期連結累計期間	3,444	—	—	3,444
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	5,729	—	—	5,729
	当第3四半期連結累計期間	5,727	—	—	5,727
うち信託関連業務	前第3四半期連結累計期間	18	—	—	18
	当第3四半期連結累計期間	22	—	—	22
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	85	—	—	85
	当第3四半期連結累計期間	174	—	—	174
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	472	—	—	472
	当第3四半期連結累計期間	595	—	—	595
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	206	—	—	206
	当第3四半期連結累計期間	198	—	—	198
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	1,766	—	819	947
	当第3四半期連結累計期間	1,740	—	827	912
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	7,006	—	890	6,116
	当第3四半期連結累計期間	7,420	—	903	6,516
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	2,086	—	—	2,086
	当第3四半期連結累計期間	2,117	—	—	2,117

- (注) 1. 「国内」とは、当行及び国内(連結)子会社であります。
2. 「海外」とは、海外(連結)子会社であります。
3. 「相殺消去額」とは、連結会社間に係る相殺消去額であります。

国内・海外特定取引の状況

特定取引収益は、135百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
特定取引収益	前第3四半期連結累計期間	278	—	—	278
	当第3四半期連結累計期間	135	—	—	135
うち商品有価証券収益	前第3四半期連結累計期間	56	—	—	56
	当第3四半期連結累計期間	63	—	—	63
うち特定取引有価証券収益	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち特定金融派生商品収益	前第3四半期連結累計期間	221	—	—	221
	当第3四半期連結累計期間	71	—	—	71
うちその他の特定取引収益	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
特定取引費用	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち商品有価証券費用	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち特定取引有価証券費用	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
うち特定金融派生商品費用	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
うちその他の特定取引費用	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—

- (注) 1. 「国内」とは、当行及び国内(連結)子会社であります。
2. 「海外」とは、海外(連結)子会社であります。
3. 「相殺消去額」とは、連結会社間に係る相殺消去額であります。

国内・海外別預金残高の状況
○ 預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内	海外	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	6,682,630	—	5,004	6,677,626
	当第3四半期連結会計期間	6,879,412	—	5,842	6,873,569
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	3,888,268	—	4,684	3,883,584
	当第3四半期連結会計期間	4,146,590	—	5,412	4,141,178
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	2,578,565	—	320	2,578,245
	当第3四半期連結会計期間	2,495,752	—	430	2,495,322
うちその他	前第3四半期連結会計期間	215,797	—	—	215,797
	当第3四半期連結会計期間	237,069	—	—	237,069
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	308,130	—	5,457	302,672
	当第3四半期連結会計期間	544,716	—	5,479	539,236
総合計	前第3四半期連結会計期間	6,990,760	—	10,461	6,980,299
	当第3四半期連結会計期間	7,424,128	—	11,321	7,412,806

- (注) 1. 「国内」とは、当行及び国内(連結)子会社であります。
2. 「海外」とは、海外(連結)子会社であります。
3. 「相殺消去額」とは、連結会社間に係る相殺消去額であります。
4. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金
5. 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内・海外別貸出金残高の状況
○ 業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	5,275,435	100.00	5,562,257	100.00
製造業	764,921	14.50	760,338	13.67
農業、林業	3,968	0.08	3,614	0.07
漁業	561	0.01	977	0.02
鉱業、採石業、砂利採取業	3,750	0.07	3,768	0.07
建設業	155,229	2.94	164,009	2.95
電気・ガス・熱供給・水道業	120,842	2.29	141,427	2.54
情報通信業	35,466	0.67	36,342	0.65
運輸業、郵便業	258,279	4.90	267,668	4.81
卸売業、小売業	516,427	9.79	521,173	9.37
金融業、保険業	343,675	6.51	318,320	5.72
不動産業、物品賃貸業	818,529	15.52	876,699	15.76
各種サービス業	360,189	6.83	380,179	6.84
地方公共団体	517,145	9.80	681,482	12.25
その他	1,376,446	26.09	1,406,246	25.28
海外及び特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	5,275,435	—	5,562,257	—

- (注) 1. 「国内」とは、当行及び国内(連結)子会社であります。
2. 「海外」とは、海外(連結)子会社であります。

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

連結会社のうち、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は提出会社１社です。

信託財産の運用 / 受入状況（信託財産残高表）

科目	資産			
	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
信託受益権	30,689	79.57	39,268	75.11
有形固定資産	629	1.63	629	1.20
銀行勘定貸	42	0.11	28	0.06
現金預け金	7,207	18.69	12,356	23.63
合計	38,569	100.00	52,283	100.00

科目	負債			
	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
金銭信託	37,848	98.13	51,566	98.63
包括信託	720	1.87	716	1.37
合計	38,569	100.00	52,283	100.00

元本補填契約のある信託の運用 / 受入状況（未残）

科目	前連結会計年度 (平成28年3月31日)			当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)		
	金銭信託 (百万円)	貸付信託 (百万円)	合計 (百万円)	金銭信託 (百万円)	貸付信託 (百万円)	合計 (百万円)
現金預け金	6,424	—	6,424	11,208	—	11,208
資産計	6,424	—	6,424	11,208	—	11,208
元本	6,424	—	6,424	11,208	—	11,208
負債計	6,424	—	6,424	11,208	—	11,208

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 主要な設備の状況

当第3四半期連結累計期間において完成した新築、増改築等は次のとおりであります。

会社名	店舗名	所在地	設備の内容	敷地面積 (㎡)	建物延面積 (㎡)	完了年月
当行	大手町支店	広島市中区	店舗	1,082.13	6,452.63	平成28年5月
	<ひろぎん>中央ビルディング		事務所			
	吉田支店	安芸高田市	店舗	—	482.99	平成28年7月

(注) 上記は既存店舗等の移転であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000,000
計	2,000,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年2月3日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	625,266,342	同左	東京証券取引所 市場第一部	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。 単元株式数は1,000株。
計	625,266,342	同左	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日	—	625,266	—	54,573	—	30,634

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期連結会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の内容が確認できないため、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,014,000	—	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 3,000	—	
完全議決権株式(その他)	普通株式 621,841,000	621,841	同上
単元未満株式	普通株式 2,408,342	—	同上
発行済株式総数	625,266,342	—	—
総株主の議決権	—	621,841	—

(注) 1. 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、2千株含まれております。また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が、2個含まれております。

2. 上記の「単元未満株式」の欄には、当行所有の自己株式が、225株含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社広島銀行	広島市中区紙屋町一丁目 3番8号	1,014,000	—	1,014,000	0.16
(相互保有株式) ひろぎんウツミ屋証券 株式会社	広島市中区立町2番30号	3,000 (注)	—	3,000	0.00
計	—	1,017,000	—	1,017,000	0.16

(注) 顧客の一般信用取引に係る本担保株式であります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1．当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2．当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成28年10月1日 至平成28年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年 3 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
現金預け金	712,514	1,064,716
コールローン及び買入手形	10,766	12,222
買入金銭債権	6,824	7,382
特定取引資産	12,284	11,010
金銭の信託	189	156
有価証券	2 1,995,792	2 2,028,987
貸出金	1 5,267,812	1 5,562,257
外国為替	7,315	8,355
その他資産	35,951	65,938
有形固定資産	88,689	92,527
無形固定資産	9,689	10,350
退職給付に係る資産	41,663	44,470
繰延税金資産	683	754
支払承諾見返	46,746	44,103
貸倒引当金	35,997	38,601
資産の部合計	8,200,925	8,914,633
負債の部		
預金	6,792,193	6,873,569
譲渡性預金	221,525	539,236
コールマネー及び売渡手形	25,288	4,077
売現先勘定	129,184	162,714
債券貸借取引受入担保金	268,079	395,713
特定取引負債	10,232	9,145
借入金	161,128	352,031
外国為替	185	742
社債	20,000	20,000
信託勘定借	42	28
その他負債	44,758	46,924
退職給付に係る負債	41	37
役員退職慰労引当金	42	25
睡眠預金払戻損失引当金	1,495	1,495
ポイント引当金	111	140
繰延税金負債	18,328	7,774
再評価に係る繰延税金負債	13,622	13,613
支払承諾	46,746	44,103
負債の部合計	7,753,006	8,471,375
純資産の部		
資本金	54,573	54,573
資本剰余金	30,817	30,743
利益剰余金	265,811	284,920
自己株式	982	433
株主資本合計	350,220	369,803
その他有価証券評価差額金	65,797	41,127
繰延ヘッジ損益	764	284
土地再評価差額金	27,784	27,763
退職給付に係る調整累計額	4,548	4,546
その他の包括利益累計額合計	97,365	73,152
新株予約権	334	302
純資産の部合計	447,919	443,258
負債及び純資産の部合計	8,200,925	8,914,633

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
経常収益	100,022	104,378
資金運用収益	61,015	59,818
(うち貸出金利息)	47,975	45,736
(うち有価証券利息配当金)	11,987	13,285
信託報酬	99	124
役務取引等収益	21,084	20,442
特定取引収益	278	135
その他業務収益	11,514	9,169
その他経常収益	¹ 6,030	¹ 14,688
経常費用	60,835	68,096
資金調達費用	5,363	6,680
(うち預金利息)	2,627	2,253
役務取引等費用	6,116	6,516
その他業務費用	5,682	6,741
営業経費	40,315	42,763
その他経常費用	² 3,357	² 5,393
経常利益	39,186	36,282
特別利益	0	6
固定資産処分益	0	6
特別損失	165	54
固定資産処分損	154	24
減損損失	11	30
税金等調整前四半期純利益	39,022	36,235
法人税、住民税及び事業税	9,499	10,049
法人税等調整額	2,830	238
法人税等合計	12,330	10,287
四半期純利益	26,691	25,947
親会社株主に帰属する四半期純利益	26,691	25,947

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	26,691	25,947
その他の包括利益	6,395	24,192
その他有価証券評価差額金	6,332	24,672
繰延ヘッジ損益	584	479
退職給付に係る調整額	648	1
持分法適用会社に対する持分相当額	0	2
四半期包括利益	20,295	1,755
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	20,295	1,755

【注記事項】

(会計方針の変更)

(「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」の適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、連結子会社及び持分法適用の関連会社が平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に及ぼす影響は軽微であります。

(追加情報)

(「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

(1)取引の概要

当行は、平成23年6月1日に、当行の業績や株価への意識を高め企業価値向上を図ることを目的とし、従業員インセンティブ・プラン「従業員持株E S O P信託」を導入しております。

当行が「広島銀行従業員持株会」(以下、「当行持株会」という。)に加入する従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする信託を設定し、当該信託は5年間にわたり当行持株会が取得すると見込まれる数の当行株式を一括して取得します。その後、当該信託は当行株式を毎月一定日に当行持株会に売却します。信託終了時に、株価の上昇により信託収益がある場合には、受益者たる従業員の拠出割合に応じて金銭が分配されます。株価の下落により譲渡損失が生じ信託財産に係る債務が残る場合には、金銭消費貸借契約の保証条項に基づき、当行が借入先銀行に対して一括して弁済するため、従業員への追加負担はありません。

なお、平成28年6月をもって当該信託は終了しております。

(2)当行は、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)を適用しておりますが、従来採用していた方法により会計処理を行っております。

(3)信託が保有する自社の株式に関する事項

第1四半期連結会計期間において、信託が保有する自社の株式を全て売却しているため、信託における期末株式はありません(前連結会計年度末の信託における帳簿価額は388百万円、期末株式数は1,094千株)。

信託が保有する自社の株式は株主資本において自己株式として計上しております。

信託が保有する自社の株式の期中平均株式数は、338千株(前第3四半期連結累計期間は1,493千株)であります。

期末株式数及び期中平均株式数は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
破綻先債権額	1,461百万円	1,652百万円
延滞債権額	45,095百万円	49,795百万円
3ヵ月以上延滞債権額	2,784百万円	2,046百万円
貸出条件緩和債権額	22,276百万円	13,494百万円
合計額	71,617百万円	66,988百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
	37,358百万円	41,017百万円

3 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
金銭信託	6,424百万円	11,208百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
株式等売却益	3,427百万円	14,154百万円
貸倒引当金戻入益	1,283百万円	—百万円

2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
貸倒引当金繰入額	－百万円	3,592百万円
株式等売却損	1,729百万円	723百万円
貸出債権売却等による損失	348百万円	131百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
減価償却費	2,831百万円	3,197百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	3,109(注1)	5.0	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金
平成27年11月9日 取締役会	普通株式	3,424(注2)	5.5	平成27年9月30日	平成27年12月10日	利益剰余金

(注) 1. 配当金の総額には、E S O P信託に対する配当金8百万円を含めておりません。

2. 配当金の総額には、E S O P信託に対する配当金7百万円を含めておりません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるものは、該当ありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	3,426(注)	5.5	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金
平成28年11月9日 取締役会	普通株式	3,433	5.5	平成28年9月30日	平成28年12月9日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、E S O P信託に対する配当金6百万円を含めておりません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるものは、該当ありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

1. 企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

2. 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金、及び「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載しております。

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

該当ありません。

2. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	67,032	105,642	38,609
債券	1,338,005	1,358,008	20,002
国債	1,039,931	1,052,823	12,892
地方債	126,339	129,137	2,798
社債	171,734	176,046	4,312
その他	485,628	521,357	35,728
合計	1,890,666	1,985,008	94,341

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	65,094	115,281	50,186
債券	1,281,366	1,292,018	10,651
国債	934,644	940,655	6,010
地方債	137,802	139,911	2,109
社債	208,920	211,452	2,531
その他	611,839	609,581	2,257
合計	1,958,300	2,016,881	58,580

(注) 1. 四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)は、当第3四半期連結決算日(連結決算日)における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

2. その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、143百万円(うち、株式143百万円)であります。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、当第3四半期連結決算日(連結決算日)において時価が取得原価に対して50%以上下落している銘柄をすべて、また30%以上50%未満下落している銘柄のうち債務者区分等を勘案し、必要と認められる銘柄を著しく下落したと判断しております。なお、著しく下落した場合であっても、回復する見込みがあると認められる銘柄については、減損処理を行っておりません。

(金銭の信託関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

1. 満期保有目的の金銭の信託

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
満期保有目的の金銭の信託	33	33	—

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

該当ありません。

2. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
その他の金銭の信託	156	156	—

(注) 連結貸借対照表計上額は、連結決算日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
その他の金銭の信託	156	156	—

(注) 四半期連結貸借対照表計上額は、当第3四半期連結決算日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	金利先物	—	—	—
	金利オプション	—	—	—
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	375,889	911	911
	金利オプション	6,133	—	3
	その他	144,663	—	133
合計		—	911	1,048

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	金利先物	—	—	—
	金利オプション	—	—	—
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	292,213	794	794
	金利オプション	5,733	—	2
	その他	7,941	—	3
合計		—	794	800

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	通貨先物	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—
店頭	通貨スワップ	817,322	221	2,175
	為替予約	170,992	574	574
	通貨オプション	266,029	—	901
	その他	—	—	—
合計		—	796	3,652

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	通貨先物	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—
店頭	通貨スワップ	794,012	186	1,636
	為替予約	169,389	56	56
	通貨オプション	312,204	0	589
	その他	—	—	—
合計		—	243	2,282

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の四半期連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

該当ありません。

(4) 債券関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	債券先物	7,565	—	—
	債券先物オプション	—	—	—
店頭	債券店頭オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	—	—

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、オプション価格計算モデル等により算定しております。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	債券先物	4,492	15	15
	債券先物オプション	—	—	—
店頭	債券店頭オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	15	15

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、オプション価格計算モデル等により算定しております。

(5) 商品関連取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

該当ありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

前連結会計年度(平成28年3月31日)

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

該当ありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	42.89	41.59
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	26,691	25,947
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益	百万円	26,691	25,947
普通株式の期中平均株式数	千株	622,293	623,772
(2) 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	42.83	41.54
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	884	745
うち新株予約権	千株	884	745
希薄化効果を有しないため、潜在株 式調整後1株当たり四半期純利益金 額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変 動があったものの概要		—	—

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株E S O P信託口・75468口)が所有していた当行株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として会計処理しているため、上記の「普通株式の期中平均株式数」に当該株式は含まれておりません。

1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間1,493千株、当第3四半期連結累計期間338千株であります。

なお、平成28年6月をもって当該信託は終了しております。

(重要な後発事象)

当行は、平成29年1月26日開催の取締役会において、関係当局への届出、許認可の取得等を前提に、持分法適用関連会社であるひろぎんウツミ屋証券株式会社が完全子会社となることを決議いたしました。

企業結合の概要は以下のとおりです。

(1)被取得企業の名称および事業の内容

ひろぎんウツミ屋証券株式会社(金融商品取引業)

(2)企業結合を行う主な理由

被取得企業との連携強化を図り、お客さまの利益の適切な保護に十分配慮した価値ある金融商品・サービスの提供とともに、お客さまの利便性やご満足・ご安心の向上に資するため

(3)企業結合日(予定)

平成29年6月1日

(4)企業結合の法的形式

持分法適用関連会社による自己株式の取得により生じる議決権比率の変動

(5)取得する議決権比率

企業結合直前に保有している議決権比率:50%

企業結合日に取得する議決権比率:50%

取得後の議決権比率:100%

(6)取得企業を決定するに至った主な根拠

当行が被取得企業の議決権の過半数を取得するため

2【その他】

○ 配当に関する事項

平成28年11月9日開催の取締役会において、第106期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額 3,433百万円

1株当たりの中間配当金 5円50銭

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2 月 2 日

株式会社広島銀行
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	尾	崎	更	三
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	河	合	聡	一 郎
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	森	本	洋	平

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社広島銀行の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社広島銀行及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- （注）1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。